

～シリーズ東京真画名所図解 第一回～ 「安治の描く江戸東京」展

会期:2014年 1月 4日(土)～ 3月30日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー第70回企画展として、2014年 1月 4日(土)から 3月 30日(日)までの期間、「～シリーズ 東京真画名所図解 第一回～『安治の描く江戸東京』」展を開催します。

元治元年(1864)に生まれた井上安治(いのうえやすじ)は、15歳で「光線画」の作品で人気を博していた小林清親(こばやしきよちか)へ入門しました。翌年の明治13年(1880)には早くも作品を発表し、以後、師の清親の作風を模倣しつつも、自身の感性で捉えた東京風景を描きました。

中でも四ツ切り判サイズを中心とした134点からなる一連の作品は、現在「東京真画名所図解」(とうきょうしんがめいしよずかい)と通称され、明治14年(1881)頃から亡くなる明治22年(1889)まで、井上安治の活動期ほぼ全般にわたって手がけた代表作になります。

当館では134点からなる「東京真画名所図解」シリーズを紹介する第一回として、今回は安治による江戸の風景が残る明治東京を描いた45点の作品を、その現在の姿を写した写真と共に展示紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

東京真画名所図解」(とうきょうしんがめいしよずかい)

井上安治(いのうえやすじ)がデビューした翌年の1881年(明治14)頃から、亡くなる1889年(明治22)頃までの、活動期ほぼ全般を通じて手がけた安治の代表する作品になります。

まとめて画帳として伝わる作品には幾つもの題名が見えますが、当時の正式な名称は判明しません。現在は「東京真画名所図解」の通称で呼ばれています。

確認されている点数は134点になり、四ツ切り判サイズを中心とした小型の作品では、安治独自の構図のほか、師清親の大判作品を写した作品が多く含まれています。写した作品の多くは、大判から四ツ切り判へと縮小されるのに合わせ、人物の数や配置のほか、季節や時刻を変更し、小サイズの構図と限られた色使いの中にまとめられています。

署名が記された作品もありますが、約半数は無記名で、「探景(たんけい)」「井上探景」と記されている作品は、「探景」の号を使用するようになった1884年(明治17)以降の制作と推測できます。

取り上げられた場所は、現在の赤坂附近を西端に、東は千葉縣市川市、北は埼玉県川口市荒川岸边、南は大田区海岸付近と、明治10～20年代の東京の風景を今の私たちに伝えてくれています。

1)東京真画名所図解 二重橋

井上安治 1887-89年(明治20-22)

2)東京真画名所図解 御城二重橋ノ景

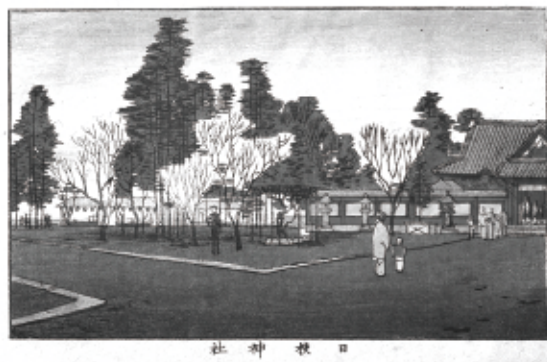
井上安治 1881-89年(明治14-22)

共に皇居二重橋を描いた作品になります。正式名称は「正門石橋」になりますが、かつては木製の橋で西丸下乗橋と呼ばれていました。

1887年(明治20)10月に改架完成した橋は総花崗岩造りで、現在もその姿を見ることが出来ます。

3)東京真画名所図解 本丸三重櫓

井上安治 1881-89年(明治14-22)



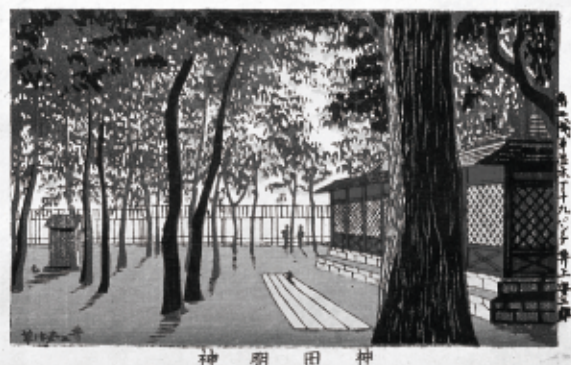
社神根口

4)東京真画名所図解 日枝神社

井上安治 1881-89年(明治14-22)

5)東京真画名所図解 九段坂

井上安治 1881-89年(明治14-22)



神明田神

6)東京真画名所図解 神田明神

井上安治 1881-89年(明治14-22)



7) 東京真画名所図解 柳橋夜雨

井上安治 1881-89年(明治14-22)

8) 東京真画名所図解 両国大火濱町河岸ニテ写ス

井上安治 1881-89年(明治14-22)

1881年(明治14)1月に神田松前町で発生した大火の様子を描いています。

清親の大判作品を模した作品で、浜町の川岸周辺には蜂須賀邸や毛利邸などの屋敷があり、その屋敷際あたりより眺めた風景かもしれません。

9) 東京真画名所図解 神田ヨリ出火久松町焼失の図

井上安治 1881-89年(明治14-22)

10) 東京真画名所図解 築地門跡ノ遠景

井上安治 1881-89年(明治14-22)

11) 東京真画名所図解 赤坂紀伊国坂

井上安治 1881-89年(明治14-22)

四谷から赤坂に向かって下る坂が、紀伊国(きのくに)坂になります。坂の西側にはかつて紀州徳川家中屋敷があり、名称の由来になっています。

作品では見えませんが、坂の左側には弁慶堀があり、街燈や電線の坂下向こうに見える赤坂の街並みまで水をたたえています。



12) 東京真画名所図解 赤坂仮皇居

井上安治 1884-89年(明治17-22)



13) 東京真画名所図解 愛宕山

井上安治 1881-89年(明治14-22)

14) 東京真画名所図解 芝増上寺

井上安治 1881-89年(明治14-22)

上野寛永寺と共に、将軍家菩提寺として幕府の庇護を受けていた増上寺ですが、時代の変革や戦災の影響を受けて規模は縮小してしまいました。

現在でも、江戸時代から変わらない姿を留めているのが作品に描かれた門で、正式名称を「三解脱門(さんげだつもん)」といい、1622年(元和8)に再建された姿を今に伝えています。

15) 東京真画名所図解 根津神社

井上安治 1881-89年(明治14-22)

16) 東京真画名所図解 ゆ島天神

井上安治 1881-89年(明治14-22)



17) 東京真画名所図解 湯島台白聖堂ノ月

井上安治 1881-89年(明治14-22)

18) 東京真画名所図解 上野公園地

井上安治 1881-89年(明治14-22)

19) 東京真画名所図解 上野新阪

井上安治 1881-89年(明治14-22)

20) 東京真画名所図解 上野御霊屋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

「御霊屋(おたまや)」の名称の通り、作品の奥に描かれているのが徳川家の霊廟になります。霊廟の多くは戦災の被害を受けており、現在は僅かな建屋が当時の様子を伝えてくれています。

21) 東京真画名所図解 上野東照宮

井上安治 1881-89年(明治14-22)

作品手前には1633年(寛永10)に酒井忠世が建立し、関東大震災にも耐えた大鳥居が描かれています。鳥居の奥には1627年(寛永4)に藤堂高虎が建立し、三代将軍家光が1651年(慶安4)に造営替えした社殿が見えます。

現在では改修工事が終わり、江戸時代と変わらないその姿を見ることが出来ます。

22) 東京真画名所図解 清水堂

井上安治 1884-89年(明治17-22)



- 23)東京真画名所図解 谷中天王寺
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 24)東京真画名所図解 浅草田甫太郎稲荷
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 現在では住宅街の一角にたたずむ神社ですが、かつては柳川藩下屋敷内あり、明治時代は下屋敷がなくなり周りが寂れたあとも信仰を集めていました。樋口一葉「たけくらべ」の中に願掛けの場面で登場するほか、落語「そろそろ」でも取り上げられています。
- 25)東京真画名所図解 新吉原の景
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 26)東京真画名所図解 今戸有明楼
井上安治 1881-89年(明治14-22)



- 27)東京真画名所図解 浅草観音
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 28)東京真画名所図解 浅草東門跡
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 雪景色の中にたたずむ伽藍は、かつては浅草本願寺の名称と呼ばれた、現在の東京本願寺の姿を描いています。関東大震災で焼け落ちた本堂は、コンクリート製の外郭を備え再建されたため、戦災の影響を受けても修理再興され、現在もその姿を見ることが出来ます。
- 29)東京真画名所図解 蔵前通
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 30)東京真画名所図解 浅草橋夕暮
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- かつての浅草橋南側附近を描いた作品で、夕焼けの通り沿いにガス街灯が並んでいる姿が見てとれます。作品中央奥に延びる道が、浅草橋付近から神田へと続く柳原通りになります。安治はデビューした1880年(明治13)に、大判「浅草橋雨中之景」で、同じ場所の夜の雨中風景を描いています。
- 31)東京真画名所図解 小梅枕橋
井上安治 1884-89年(明治17-22)



- 32)東京真画名所図解 向島桜
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 33)東京真画名所図解 向島夜桜
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- こちらの作品は夜の隅田川沿いの風景を描いています。川面に、花が咲いた枝を伸ばす桜はシルエットで描かれ、満月の明るさがより強調されています。この作品では、人々が船上からの眺めを楽しんでいます。
- 34)東京真画名所図解 隅田川堤
井上安治 1881-89年(明治14-22)



- 35)東京真画名所図解 向島秋葉境内
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 現在の社殿は、住宅にはさまれた細い参道の奥に鎮座していますが、かつては広い境内を持ち、茶屋や宿泊施設などがありました。現在でも11月の鎮火祭では境内の神楽殿で舞が奉納されるなど、往年の規模からは縮小していますが、歴史を伝えてくれます。



- 36)東京真画名所図解 梅若神社ノ雨
井上安治 1881-89年(明治14-22)



- 37)東京真画名所図解 柳島妙見
井上安治 1881-89年(明治14-22)
- 北十間川と横十間川が合流する附近を描いており、作品には横十間川に架かる柳橋の向こうに、葛飾北斎も信仰した妙見堂(みょうけんどう)の赤い塀が描

かれています。

正式な寺名は「法性寺(ほうしょうじ)」といい、別途紹介する市川の弘法寺の末寺になります。

38)東京真画名所図解 亀井戸藤
井上安治 1881-89年(明治14-22)

39)東京真画名所図解 亀井戸梅屋敷
井上安治 1881-89年(明治14-22)

初代広重の作品でも有名な亀戸の梅屋敷ですが、元は個人の別邸でした。明治以降も人々を集めました。1910年(明治43)に亀戸、大島、砂町一帯を襲った大洪水で園内の梅は枯れてしまい、その後廃園となりました。現在は歩道の植え込みに、石碑と梅の木が植えられています。

40)東京真画名所図解 飛鳥山
井上安治 1887-89年(明治20-22)

江戸時代より行楽の名所であった飛鳥山は、1873年(明治6)に上野公園などと合わせ、日本初の公園に指定されました。

敷地内では桜や眺望が楽しめ、高台下には石神井川の水を利用して日本最初の製紙工場が設けられ、作品には建屋からそびえる煙突の姿が描かれています。



41)東京真画名所図解 滝ノ川紅葉
井上安治 1881-89年(明治14-22)



42)東京真画名所図解 道灌山下
井上安治 1881-89年(明治14-22)

43)東京真画名所図解 道灌山
井上安治 1881-89年(明治14-22)

現在の西日暮里駅の西北に延びる高台は道灌山と呼ばれ、名前の由来は、太田道灌の城址跡とも豪族の関道閑(せきどうかん)の屋敷跡からともいわれています。江戸時代より眺望の名所で、かつては東側の崖下に広がる田んぼの向こうには筑波山が望め、作品にもその姿が描かれています。



44)東京真画名所図解 堀切
井上安治 1881-89年(明治14-22)

清親の大判「堀切花菖蒲」を模した作品になります。作品の大きさの違いにより、人物の配置に変化はあるものの、高台や菖蒲畑脇の茶屋、園内の樹木の枝振り

の様子に大きな変化はありません。作品中央の茶屋前にある松の姿より、堀切における菖蒲園の祖といえる小高園の園内を描いていると考えられます。

45)東京真画名所図解 真間弘法寺
井上安治 1881-89年(明治14-22)

おもな参考文献

井上安治 東京真画名所図解
 安藤鶴夫・吉田漱 平凡社 1968年
 色刷 明治東京名所絵 井上安治画
 木下龍也編 角川書店 1981年
 清親と安治 光線画の時代
 山口県立萩美術館・浦上記念館 2012年
 中央区の橋・橋詰広場 中央区委員会 1998年
 かつしかブックレット13 花菖蒲II 2006年
 図版 明治の地図で見る 鹿鳴館時代の東京 (株)学習研究社 2007年
 東京の近代洋風建築 東京都 1991年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》